

## 第2回伊豆市教育振興審議会次第

平成29年10月11日 19:30～

於：市役所別館2階 会議室

### 1 開 会

### 2 会長あいさつ

### 3 確認・報告事項

1) 国が目指す中学校のあり方について・・・・・・・・・・資料1・2

2) 委員事前アンケートの報告・・・・・・・・・・資料3  
・部活動関係

### 4 協 議

(1) 3中学校の教育の課題の把握について

①見学目的と見学方法について

②意見集約について

ア 保護者アンケート・・・・・・・・・・資料4

イ 教員

(2) 学校規模によるメリット・デメリットについて・・・・資料5

(3) その他

☆☆☆ 第3回伊豆市教育振興審議会の開催予定 ☆☆☆

日 時：平成29年11月 日（ ）

場 所：

候補日 11月16日（木）17日（金）、22日（水）24日（金）、29日（水） 19:30～

### 5 閉 会

## 公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引(要旨) (平成27年1月27日)

### 基本的な考え方と手引の位置付け

#### (基本的な考え方)

- 学校規模適正化の検討は、児童生徒の教育条件をより良くする目的で行うべきもの。
- 学校統合を行うか、学校を残しつつ小規模校の良さを活かした学校作りを行うか、休校した学校の再開を検討するなど、活力ある学校作りをどのように推進するかは、地域の実情(学校が都市部にあるのが過疎地にあるのか等)に応じたきめ細かな分析に基づく各設置者の主体的判断。
- コミュニティの核としての学校の性格や地理的要因・地域事情等に配慮する必要。特に過疎地など、地域の実情に応じて小規模校の課題の克服を図りつつ小規模校の存続を選択する市町村の判断も尊重。

#### (手引の位置付け)

- 必ずしも検討が進んでいない市町村も多く、検討に必要な資料の提供等の国による支援が求められている。
- 学校規模適正化や小規模校の充実策の検討に際しての基本的方向性や考慮すべき要素、留意点等をまとめ、各自治体の主体的な取組を総合的に支援する方策の一環として策定するもの。

### 学校規模の適正化

- 学校小規模化の影響について、学級数の観点に加え、学校全体の児童生徒数やクラスサイズ等の様々な観点から整理。
- その上で、学校規模の標準(12~18学級)を下回る場合の対応の大きな目安について、学級数の状況毎に区分して提示。

#### 【学校小規模化の影響の例】

##### (学校運営上の課題)

- ・クラス替えで必ず人間関係が固定化
- ・集団行事の実施に制約
- ・部活動の種類が限定
- ・授業で多様な考えを引き出しにくい 等

##### (児童生徒への影響)

- ・社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい
- ・切磋琢磨する環境の中で意欲や成長を引き出されにくい
- ・多様な物の見方や考え方に触れることが難しい 等

【提示例】 小学校(1~5学級)複式学級が存在する規模概ね、複式学級が存在する学校規模。学校全体の児童数や指導方法等にもよるが、一般に教育上の課題が極めて大きいため、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。地理的条件等により統合困難な事情がある場合は、小規模校のメリットを最大限生かす方策や、小規模校のデメリットの解消策や緩和策を積極的に検討・実施する必要がある。

### 学校の適正配置(通学条件)

- スクールバス利用等、通学実態の多様化を踏まえ、従来の通学距離の基準(小学校:4km以内、中学校:6km以内)に加えて、通学時間の基準を設定する場合の目安を提示。

⇒1時間以内を一応の目安として、市町村が判断  
(適切な交通手段を確保し、遠距離通学のデメリットを一定程度解消する前提)

### 学校統合を検討する場合の留意事項

- 保護者・地域住民と教育上の課題やビジョンを共有し、理解を得ながら検討を進める上での工夫例を提示。

#### (内容例)

##### ○統合の適否に関する合意形成

- ・小規模の課題の可視化と共有
- ・統合効果の共通理解
- ・保護者や地域代表が参画した統合プランの検討
- ・住民アンケートの実施 等

##### ○魅力ある学校作り

- ・教育課程特例校制度等を活用した魅力的なカリキュラムの導入
- ・コミュニティスクールの推進
- ・小中一貫教育の導入
- ・施設設備の充実 等

##### ○統合により生じる課題への対応

- ・バス通学による体力低下への対応
- ・児童生徒の環境適応支援
- ・廃校校舎の地域拠点としての活用 等

### 小規模校を存続させる場合の教育の充実方策

- 小規模校のメリットを最大化し、デメリットを最小化することができるよう様々な工夫例を提示。

#### (内容例)

##### ○小規模校の良さを活かす方策

- ・少人数であることを生かした教育活動(外国語の指導や実技指導等)の徹底
- ・個別指導・繰り返し指導の徹底等による学習内容の定着
- ・地域の自然・文化・産業資源等を活かした特別なカリキュラムの編成
- ・地域との密接なつながりを活かした校外学習・体験活動の充実 等

##### ○小規模校の課題を緩和する方策

- ・小中一貫教育による一定の学校規模の確保
- ・社会教育施設等との複合化による教育活動の充実
- ・ICTの活用による他校との合同授業
- ・小規模校間のネットワークの構築 等

### 休校した学校の再開

- 地域全体の振興策を総合的に検討する中で、一旦休校とした学校を再開させる取組に関して、具体的な工夫例を提示。

#### (内容例)

##### ○一旦休校とした学校の再開に向けた工夫

- ・学校選択制の部分的導入等により人口集中地域から生徒を集める工夫
- ・山村留学・漁村留学の積極的な受け入れ
- ・学校再開を想定した休校の校舎等の維持・活用  
(宿泊可能な設備の整備、伝統文化の保存・継承組織の活動拠点や芸術家村としての活用) 等

##### ○再開後の小規模校の活性化

- ・小規模校のメリット最大化・デメリット最小化策の重要性
- ・地域の豊かな自然や地域住民とのふれあいの機会等を活かした特別なカリキュラムの編成
- ・国の支援メニューの活用(施設整備・スクールバス購入補助等)
- ・多様な工夫や支援の活用に関する文部科学省に対する直接相談 等

## 幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント

## 1. 今回の改訂の基本的な考え方

- 教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に関かれた教育課程」を重視。
- 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成。
- 先行する特別教科化など道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成。

## 2. 知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」

## 「何ができるようになるか」を明確化

知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理。

(例) 中学校理科：①生物の体のつくりと働き、生命の連続性などについて理解させるとともに(生命領域) に、②観察、実験など科学的に探究する活動を通して、生物の多様性に気付くとともに規則性を見いだしたり表現したりする力を養い、③科学的に探究しようとする態度や生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

## 我が国の教育実践の蓄積に基づく授業改善

我が国のこれまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善の活性化により、子供たちの知識の理解の質の向上を図り、これからの時代に求められる資質・能力を育てていくことが重要。

小・中学校においては、これまでと全く異なる指導方法を導入しなければならないと浮足立つ必要はなく、これまでの教育実践の蓄積を若手教員にもしっかり引き継ぎつつ、授業を工夫・改善する必要。

〔語彙を表現に生かす、社会について資料に基づき考える、日常生活の文脈で数学を活用する、観察・実験を通して科学的に根拠をもって思考する など〕

※ 学校における喫緊の課題に対応するため、義務標準法\*の改正による16年ぶりの計画的な定数改善を図るとともに、教員の授業準備時間の確保など新学習指導要領の円滑な実施に向けた指導体制の充実や、運動部活動ガイドラインの策定による業務改善などを一層推進。

\*義務標準法：公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律

※ 既に行われている優れた教育実践の教材、指導案などを集約・共有化し、各種研修や授業研究、授業準備での活用のために提供するなどの支援の充実。

## 3. 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立

○ 教科等の目標や内容を見渡し、特に学習の基盤となる資質・能力(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等)や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実する必要。また、「主体的・対話的で深い学び」の充実には単元など数コマ程度の授業のまとまりの中で、習得・活用・探究のバランスを工夫することが重要。

○ そのため、学校全体として、教育内容や時間の適切な配分、必要な人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善などを通して、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを確立。

#### 4. 教育内容の主な改善事項

##### 言語能力の確実な育成

- ・発達の段階に応じた、語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど情報を正確に理解し適切に表現する力の育成(小中:国語)
- ・学習の基盤としての各教科等における言語活動(実験レポートの作成、立場や根拠を明確にして議論することなど)の充実(小中:総則、各教科等)

##### 理数教育の充実

- ・前回改訂において2~3割程度授業時数を増加し充実させた内容を今回も維持した上で、日常生活等から問題を見いだす活動(小:算数、中:数学)や見通しをもった観察・実験(小中:理科)などの充実によりさらに学習の質を向上
- ・必要なデータを収集・分析し、その傾向を踏まえて課題を解決するための統計教育の充実(小:算数、中:数学)、自然災害に関する内容の充実(小中:理科)

##### 伝統や文化に関する教育の充実

- ・正月、わらべうたや伝統的な遊びなど我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむこと(幼稚園)
- ・古典など我が国の言語文化(小中:国語)、県内の主な文化財や年中行事の理解(小:社会)、我が国や郷土の音楽、和楽器(小中:音楽)、武道(中:保健体育)、和食や和服(小:家庭、中:技術・家庭)などの指導の充実

##### 道徳教育の充実

- ・先行する道徳の特別教科化(小:平成30年4月、中:平成31年4月)による、道徳的価値を自分事として理解し、多面的・多角的に深く考えたり、議論したりする道徳教育の充実

##### 体験活動の充実

- ・生命の有限性や自然の大切さ、挑戦や他者との協働の重要性を実感するための体験活動の充実(小中:総則)、自然の中での集団宿泊体験活動や職場体験の重視(小中:特別活動等)

##### 外国語教育の充実

- ・小学校において、中学年で「外国語活動」を、高学年で「外国語科」を導入  
※小学校の外国語教育の充実にあたっては、新教材の整備、養成・採用・研修の一体的な改善、専科指導の充実、外部人材の活用などの条件整備を行い支援
- ・小・中・高等学校一貫した学びを重視し、外国語能力の向上を図る目標を設定するとともに、国語教育との連携を図り日本語の特徴や言語の豊かさに気付く指導の充実

## その他の重要事項

### ○幼稚園教育要領

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の明確化  
(「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」)

### ○初等中等教育の一貫した学びの充実

- ・小学校入学当初における生活科を中心とした「スタートカリキュラム」の充実(小:総則、各教科等)
- ・幼小、小中、中高といった学校段階間の円滑な接続や教科等横断的な学習の重視(小中:総則、各教科等)

### ○主権者教育、消費者教育、防災・安全教育などの充実

- ・市区町村による公共施設の整備や租税の役割の理解(小:社会)、国民としての政治への関わり方について自分の考えをまとめる(小:社会)、民主政治の推進と公正な世論の形成や国民の政治参加との関連についての考察(中:社会)、主体的な学級活動、児童会・生徒会活動(小中:特別活動)
- ・少子高齢社会における社会保障の意義、仕事と生活の調和と労働保護立法、情報化による産業等の構造的な変化、起業、国連における持続可能な開発のための取組(中:社会)
- ・売買契約の基礎(小:家庭)、計画的な金銭管理や消費者被害への対応(中:技術・家庭)
- ・都道府県や自衛隊等国の機関による災害対応(小:社会)、自然災害に関する内容(小中:理科)
- ・オリンピック・パラリンピックの開催を手掛かりにした戦後の我が国の展開についての理解(小:社会)、オリンピック・パラリンピックに関連したフェアなプレイを大切にするなどスポーツの意義の理解(小:体育、中:保健体育)、障害者理解・心のバリアフリーのための交流(小中:総則、道徳、特別活動)
- ・海洋に囲まれ多数の島からなる我が国の国土に関する指導の充実(小中:社会)

### ○情報活用能力(プログラミング教育を含む)

- ・コンピュータ等を活用した学習活動の充実(各教科等)
- ・コンピュータでの文字入力等の習得、プログラミング的思考の育成(小:総則、各教科等(算数、理科、総合的な学習の時間など))

### ○部活動

- ・教育課程外の学校教育活動として教育課程との関連の留意、社会教育関係団体等との連携による持続可能な運営体制(中:総則)

### ○子供たちの発達の支援(障害に応じた指導、日本語の能力等に応じた指導、不登校等)

- ・学級経営や生徒指導、キャリア教育の充実について、小学校段階から明記。(小中:総則、特別活動)
- ・特別支援学級や通級による指導における個別の指導計画等の全員作成、各教科等における学習上の困難に応じた指導の工夫(小中:総則、各教科等)
- ・日本語の習得に困難のある児童生徒や不登校の児童生徒への教育課程(小中:総則)、夜間その他の特別の時間に授業を行う課程について規定(中:総則)

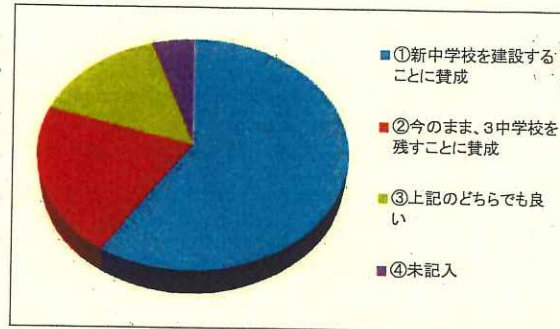
## 新中学校建設に関する保護者アンケート結果について

平成28年4月26日 議会全員協議会報告

伊豆市教育委員会

- 1、アンケートの目的 今後の市内3中学校の在り方について新中学校建設、既存のまま存続すべきかの意向を調査し、今後の施策の資料とする。
- 2、対象者 修善寺地区、中伊豆地区、天城地区の0才児から12歳(小学校6年生)の保護者 1,221名
- 3、アンケートの内容 別紙のとおり
- 4、実施方法 住民登録されている対象世帯に直接郵送。返信用封筒にて回収。
- 5、調査結果 回答者数 597名

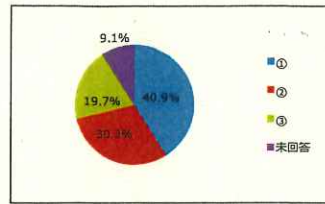
今後の中学校について	回答者数	回答割合
①新中学校を建設することに賛成	355	59.5%
②今のまま、3中学校を残すことに賛成	122	20.4%
③上記のどちらでも良い	91	15.2%
④未記入	29	4.9%
合計	597	100.0%
対象者/回答者=回答率	48.9%	



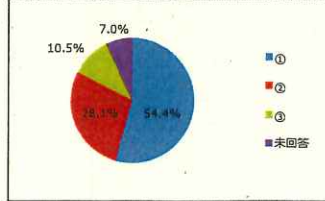
### 6、主なご意見

①新中学校に賛成する	人数	②今のまま残すことに賛成する	人数	③どちらでも良い・未記入	人数
部活の充実した中学校に期待している。	43	通学時間が増え、勉強の時間が減る	5	通学対策としてスクールバスの検討をお願いしたい。	5
多くの友達をなかで、競い合わせたい。	32	修善寺中学を使用すればよい。新しい施設は不要。	4	第2グラウンドを公園の位置に。道路横断が心配である	3
通学対策に万全を期し、子どもたちがよりよい環境と充実した学校生活の実現を希望する。	10	中3で新中開校。高校進学にマイナス、不安が多い。	4	新中学校は家に近いので良いが、天城、中伊豆の方の通学を心配する。	2
計画どおり平成32年4月の再編成を強く望みます。	11	借金(負債)が増える・税金の無駄使い。	4	普通の中学校で良い。費用削減を。	2
教科担任の不足の改善が必要、学習面でも子どもが行きたくなくなるような中学校を。	8	地域の学校がなくなると過疎化が進む。	4	通学対策、どう通学するかを具体的に示してほしい。	2
今後の学校改革等の将来的な財政負担を考えると今しかない。	7	各地区の学校を残し小中一貫としたほうが良い。	3	通学が不便になり困る。子どもの安全を第1に。	2
スクールバスの運行を条件に賛成します。	5	税金の無駄使い。駅から近い修善寺中で良い。	2	通学(歩道・自転車通学)対策を事前にしっかりと。	2
スクールバスがあるとありがたい・検討してほしい。	5	3中学校の統合は賛成だが、修善寺中にすべき。	2		
子どもにとっては安心して勉強や部活ができる最良の選択肢だと思う。	4	通学負担が増える。	2		
魅力ある中学が市外からの転入につながればと思う	3	教科教室型は、移動や学習面で不安がある。	2		
地震時に耐えうる安心安全なしっかりしたものとしてほしい	3	送迎が大変、子どもの負担も増える	2		
教科教室等新たな取り組みが必要だと思う。	2	部活への負担が大きくなる(通学等)	2		
施設の老朽化を考え、特例債を使い建設すべきである	2	新校地付近は不審者が出没するので、危険である	2		
子どもにとっても安全面や費用面すべてにおいて良い	2	各中学校が使えなくなった時点で統合すべき	2		
上の子を通った中学は老朽化し、補助金が出るうちに新設し多くの友達と切磋琢磨しながら成長してほしい	2	少人数学級のきめ細かな教育を望みます。	2		
最新の施設設備で良い教育を受けられるよう希望	2	教科教室は不要。要は先生の「力」と生徒の「やる気」	2		
子どもたちのことを考えて良い結果になればと思う。	2	各地域で子供を増やす施策が先であると思う。	2		
賛成ですが、経費が少なくなる工夫を。	2	統合するならスクールバスの運行を希望する。	2		
小中同じクラスより多くの友達で学校生活を送るほうが社会生活に適用できると思う。	2				
賛成ですが、市民の理解も得たうえで進めてほしい。	2				
中長期視点では今の新中学校が市の負担が少ないし、教育環境がととのった教育を受けさせたい。	2				
建物より、安心・安全や教育のソフト面の充実が必要	2				
駐車場が少なく不安です。	2				
駐車場が少ない今の計画を見直して下さい。	2				
通学バスの増便を検討してください。	2				

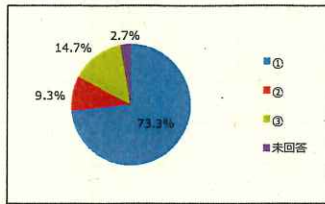
	回答	人数	割合
修善寺小学区	①	27	40.9%
送付枚数 : 156	②	20	30.3%
回答率 : 42.3%	③	13	19.7%
	未回答	6	9.1%
	合計	66	100%



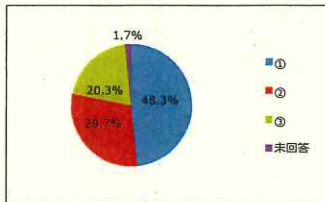
	回答	人数	割合
熊坂小学区	①	31	54.4%
送付枚数 : 101	②	16	28.1%
回答率 : 56.4%	③	6	10.5%
	未回答	4	7.0%
	合計	57	100%



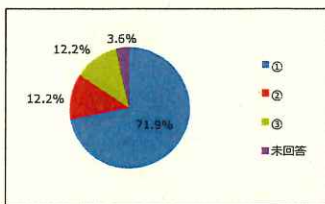
	回答	人数	割合
修善寺東小学区	①	55	73.3%
送付枚数 : 129	②	7	9.3%
回答率 : 58.1%	③	11	14.7%
	未回答	2	2.7%
	合計	75	100%



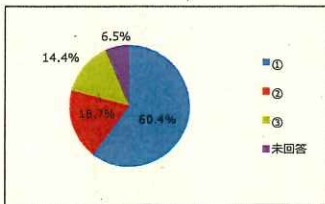
	回答	人数	割合
修善寺南小学区	①	57	48.3%
送付枚数 : 300	②	35	29.7%
回答率 : 39.3%	③	24	20.3%
	未回答	2	1.7%
	合計	118	100%



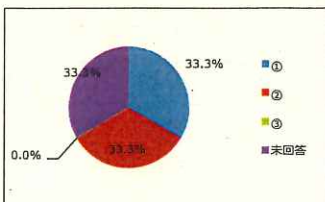
	回答	人数	割合
天城小学区	①	100	71.9%
送付枚数 : 265	②	17	12.2%
回答率 : 52.5%	③	17	12.2%
	未回答	5	3.6%
	合計	139	100%



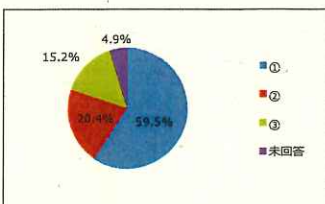
	回答	人数	割合
中伊豆小学区	①	84	60.4%
送付枚数 : 270	②	26	18.7%
回答率 : 51.5%	③	20	14.4%
	未回答	9	6.5%
	合計	139	100%



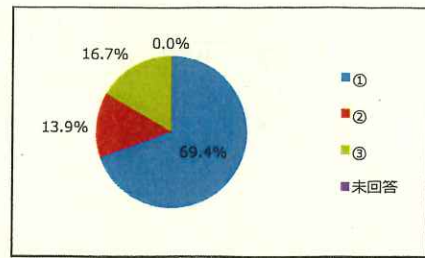
	回答	人数	割合
未回答	①	1	33.3%
	②	1	33.3%
	③	0	0.0%
	未回答	1	33.3%
	合計	3	100%



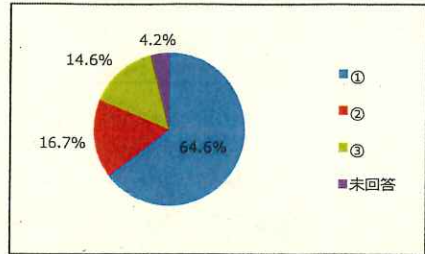
	回答	人数	割合
小計	①	355	59.5%
送付枚数 : 1221	②	122	20.4%
回答率 : 48.9%	③	91	15.2%
	未回答	29	4.9%
	合計	597	100%



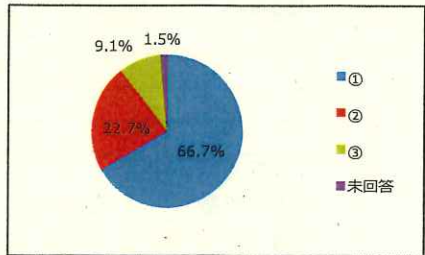
	回答	人数	割合
0歳	①	25	69.4%
	②	5	13.9%
	③	6	16.7%
	未回答	0	0.0%
	合計	36	100.0%



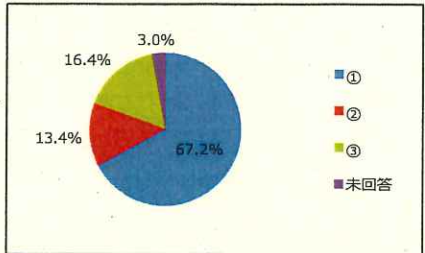
	回答	人数	割合
1歳	①	31	64.6%
	②	8	16.7%
	③	7	14.6%
	未回答	2	4.2%
	合計	48	100.0%



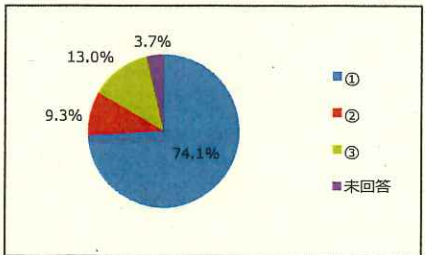
	回答	人数	割合
2歳	①	44	66.7%
	②	15	22.7%
	③	6	9.1%
	未回答	1	1.5%
	合計	66	100.0%



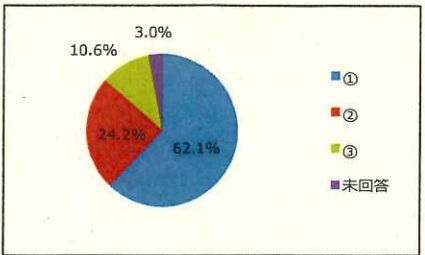
	回答	人数	割合
3歳	①	45	67.2%
	②	9	13.4%
	③	11	16.4%
	未回答	2	3.0%
	合計	67	100.0%



	回答	人数	割合
4歳	①	40	74.1%
	②	5	9.3%
	③	7	13.0%
	未回答	2	3.7%
	合計	54	100.0%

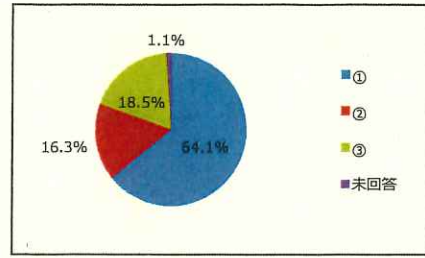


	回答	人数	割合
5歳	①	41	62.1%
	②	16	24.2%
	③	7	10.6%
	未回答	2	3.0%
	合計	66	100.0%

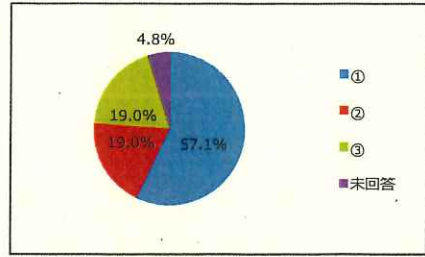




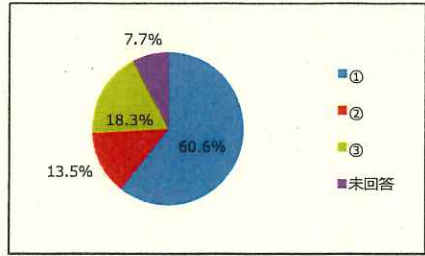
	回答	人数	割合
6歳 (小学1年)	①	59	64.1%
	②	15	16.3%
	③	17	18.5%
	未回答	1	1.1%
	合計	92	100.0%



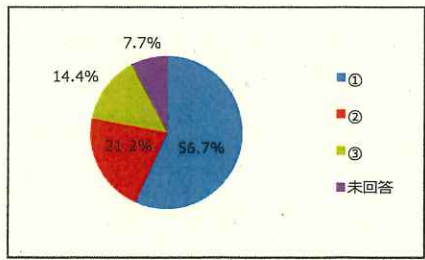
	回答	人数	割合
7歳 (小学2年)	①	48	57.1%
	②	16	19.0%
	③	16	19.0%
	未回答	4	4.8%
	合計	84	100.0%



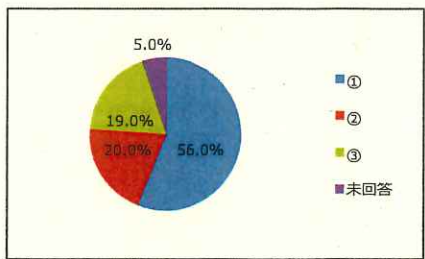
	回答	人数	割合
8歳 (小学3年)	①	63	60.6%
	②	14	13.5%
	③	19	18.3%
	未回答	8	7.7%
	合計	104	100.0%



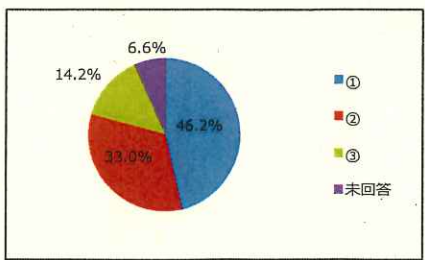
	回答	人数	割合
9歳 (小学4年)	①	59	56.7%
	②	22	21.2%
	③	15	14.4%
	未回答	8	7.7%
	合計	104	100.0%



	回答	人数	割合
10歳 (小学5年)	①	56	56.0%
	②	20	20.0%
	③	19	19.0%
	未回答	5	5.0%
	合計	100	100.0%



	回答	人数	割合
11歳 (小学6年)	①	49	46.2%
	②	35	33.0%
	③	15	14.2%
	未回答	7	6.6%
	合計	106	100.0%



(文部科学省 白書より)

小規模校であることにより生かせる強み

学校全体やクラスの児童生徒数が少ない

享受しうるメリット

- ① 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導・個別指導などきめ細かな指導が行いやすい
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる
- ③ 様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる
- ④ 複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる
- ⑤ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える
- ⑥ 教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。(ICT機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能)
- ⑦ 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる
- ⑧ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい
- ⑨ 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる

学校の小規模化に伴って生じうるデメリット

学校全体の学級数が少ない

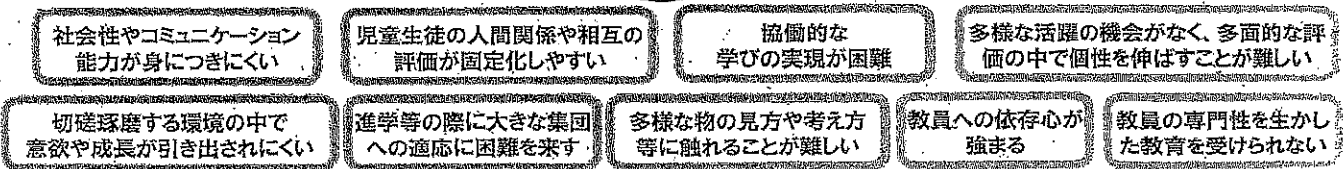
生じる学校運営上の課題

- ◆クラス替えができない
- ◆クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- ◆習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとれない
- ◆クラブ活動や部活動の種類が限定
- ◆運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ◆男女比の偏りが生じやすい
- ◆上・下級生間のコミュニケーションが限定
- ◆学習や進路選択の模範となる先輩が少ない

- クラスサイズが極端に小さいことによる課題
- ◆体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約
  - ◆班活動やグループ分けに制約
  - ◆協働的な学習で取り上げる課題に制約
  - ◆教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる
  - ◆生徒指導上課題のある子供の問題行動にクラス全体が大きな影響を受ける
  - ◆児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約
  - ◆教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる

- 教職員数が少ないことによる課題
- ◆経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置が困難
  - ◆免許外指導の教科が発生(中学校)
  - ◆ITやグループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法をとることが困難
  - ◆クラブ活動や部活動の指導者確保が困難
  - ◆教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達が困難
  - ◆教職員一人当たりの校務・行事負担が重く、校内外の研修や研究協議会等に参加困難
  - ◆教員間に負担の大きな不均衡が生ずる
  - ◆様々な課題に組織的に対応することが困難

児童生徒への影響の可能性



# 学校規模によるメリット・デメリット(例)

## 中学校規模の標準 12~18クラス

※ 学校の適正配置に関して都道府県・市町村が作成している計画等を参考に文部科学省において作成

参考資料

	小規模化		大規模化	
	メリット	デメリット	メリット	デメリット
【学習面】	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。</li> <li>学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。</li> <li>1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。</li> <li>運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。</li> <li>中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。</li> <li>児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。</li> <li>運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。</li> <li>中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。</li> <li>児童・生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。</li> <li>学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。</li> </ul>
【生活面】	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。</li> <li>異学年間の縦の交流が生まれやすい。</li> <li>児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。</li> <li>集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。</li> <li>切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。</li> <li>組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。</li> <li>切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。</li> <li>学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。</li> <li>全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。</li> </ul>
【学校運営面・財政面】	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。</li> <li>学校が一体となって活動しやすい。</li> <li>施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。</li> <li>学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。</li> <li>一人に複数の校務分掌が集中しやすい。</li> <li>教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。</li> <li>学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。</li> <li>校務分掌を組織的に実行しやすい。</li> <li>出張、研修等に参加しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員相互の連絡調整が図りづらい。</li> <li>特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。</li> </ul>
【その他】	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域社会との連携が図りやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。</li> </ul>

(伊豆市の中学校)